NIE実践報告

1．タイトル：**中学校美術科における新聞記事活用の実践事例**

2．学校名

新潟市立東新潟中学校

3．実践者名（代表者名）

渡邉敏尚

4．学年

中学2年生

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

美術・デザイン・35人

6．単元（本時の学習課題）名

ザ・対決！～新聞記事を伝えるポスターを作ろう～（中学２年デザイン）

7．目標(狙い)

○　共同で制作する活動を通して，吹き出しの形やキャッチコピーを選択しながら発想し，グループで画面構成を追求することができる。

8．評価の視点

○　習得した色や形の感情効果の知識を活用して表現意図に合う「吹き出し」を考えたり，気付いたことを仲間に伝えたりすることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

全５時間（本時４／５）
本題材では，新聞記事を用いることで，比較的短時間で，デザインにおける伝達の機能性の理解を深めること

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

まず，基本となる学習内容を習得させるため，色彩の感情効果についての既習の学習内容の確認を行う。具体的には，同じ形で違う色同士の学習モデルを対比させ，感じ方の違いを問う。すると生徒は，既習の知識を基に色によって受ける印象が変わることを認識する。

次に，同じ色で違う形の学習モデルを提示し，受ける印象について問う。すると生徒は，形から受ける心理効果について気付く。こうすることで，既習の色彩の感情効果の学習が「形」に応用され，生徒は本題材に必要な新しい学習内容を身に付けることができる。（0.5ｈ）

色と形で感情が表現できることを確認した上で，新聞記事を基に小作品を個別に制作する活動を組織し，スモールステップで学習内容の習得を促す。（1.5ｈ）

具体的には，容易に読むことができるトピック的な記事を提示し，「記事から受ける色のイメージ」を問う。そうすることで，生徒は記事の内容から受けたイメージと造形要素とを結びつけることができる。そして，記事から気になったキーワードを抜き書きし，キャッチコピーを付けて吹き出しにする指示を行う。このとき，授業者制作の作品モデルを提示し，四角い画面の中に吹き出しを納めて配置した作例と，画面からはみ

11．児童・生徒の反応、感想・意見

- **作品が四角ではなくてもよいことに新鮮さがあった。**
- **個人制作のあとの作品交流では，同じ記事から発想しても，自分とは違う他者のいろいろな表現の仕方に刺激を受けていた。**

12．成果と課題

【成　果】

○　個人制作，共同制作という学習過程を構成することを通して，既習内容の「色の感情効果」と新出の「形の感情効果」の両方を学習内容として習得・活用する学習が成立した。

○　どの生徒も、新聞記事から自分の興味ある内容を抜き出し，画面構成に活かすことができていた。

○　新聞記事を学習に用いることは，生徒の学習への意欲を高めたり，学習に必然性をもたせることに有効である。